



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和3年6月7日発行

文責 校長 宮原 友彦

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急特別警戒宣言がようやく7日に解除され、長崎市の感染段階も最も高いステージ5から2段階引き下げたステージ3になり、長崎市内の飲食店への時短営業要請も解除される見通しです。ようやく市内の感染者も一桁の日が増えてきて、やや落ち着きが見られるようになってきました。これまでの保護者のみなさんの御協力と医療関係者をはじめ、感染症対策に関わる全ての方々に感謝申し上げます。

ただ、新たな変異株も出現し、まだまだ警戒を怠ってはいけません。学校についても、まだ現段階では同居家族の風邪症状がある場合は登校できない（出席停止）は解除されていませんので、引き続き朝の健康観察表への記載をお願いいたします。

三原に吹く風

① 5月から体力向上プログラムの一環として、運動場でのランニングがスタートしています。熱中症やマスク着用で呼吸困難にならないよう、水分補給やマスクなしで間隔を取って走るなど配慮しながら行われていますが、『各学年ごとに設定されたグラウンド周回数を達成するとご褒美に校長とあっち向いてホイができる。』というものです。それがご褒美になるのかどうかは疑問ですが、すでに達成した子どもたちがおり、ニコニコしながら休み時間に校長室前で待っています。子どもたちにとっては、校長（私）とあっちむいてホイをすることよりも、日頃敷居が高い（？）校長室に入れることがご褒美のようで、中に入ってはキョロキョロと見まわし、歴代校長の写真を見ながら、「みんな亡くなった人ですか？」という物騒な質問やかつてあった課外クラブや小体会で勝ち取ったトロフィーなどを見て、「ほしか～！」と感想を話してくれます。もっと敷居が低い校長室であるよう、ころがけたいと思います。



② 校長室のとなりに保健室があるのですが、大きな変化が起こっています。それは何かというと、ちょうど今各種健康診断が行われているのですが、4月頃にはどの学年もざわわ話し声が絶えなかったり、キョロキョロ落ち着きがない姿が多かったようです。ところが最近は、保健室前廊下に来ているのかどうかかわからないぐらいシーンとした状態で、その変わりようにびっくりさせられます。かつて、戦国最強と言われた武田信玄が掲げた最強の集団の条件「疾（はや）きこと風の如し」、「静かなること木の如し」、「侵掠（侵略）すること火の如し」、「動かざること山の如し」を彷彿させるような成長具合に嬉しかった出来事でした。



宮原のつぶやき

先日、三原団地自治会の中西賢一会長をはじめ2名の方々が校長室を訪ねてこられました。ご相談ということで、お話をお伺いすると、放課後に黄色門から帰る子どもの中に、扇堂前の横断歩道を通らずに、道路を走って飛び出して渡っている子どもがいて、何度注意しても止めないから危ないというお知らせをいただいたので、自治会を代表してお願いに来たとのことでした。近年、「よその子」に注意すると、文句を言われたり、下手をすると危害を加えられたりするから黙っておいた方がいいという風潮が多いのですが、三原っ子を「よその子」と思わず、きちんと注意してくださる方が地域にいらっしゃることに本当に感謝いたします。また、「学校は、してはいけないことは絶対にしない（ブレーキ）ことと、しなくてはいけないことは必ずする（アクセル）ことを学ぶ場」です。特に命に関わることで、できるだけ繰り返し指導をしていきたいと思います。

